

IBM Application Modernization

Field Guide



こちらから最新版のアプリケーション・
モダナイゼーション・フィールド・ガイ
ドをダウンロードしてください



<https://ibm.biz/appm-fguide>

アプリケーション・ポートフォリオをモダナイズする时机がきました

ビジネス上のプレッシャーにより、市場投入までの期間短縮とアプリのモダナイゼーションが必要です。既存の資産によって、モダナイゼーションへの最適なアプローチが異なります。モダナイゼーション手法としては、クラウドネイティブなマイクロサービスへのリファクタリング、従来のアプリのコンテナ・プラットフォームへの載せ換えなどがあります。IBM Garage™ 専門家を利用して、アプリケーションのモダナイゼーション・ジャーニーを加速してください。

モダナイゼーションがすぐにもたらすメリット

デジタル・トランスフォーメーションを加速。 アプリのモダナイゼーションは、ビジネスを変革して新しい機能を構築し、迅速にデリバリーしようというニーズに後押しされています。

開発者のエクスペリエンスを変革。 クラウドネイティブなアーキテクチャーとコンテナ化の採用によって、新規アプリケーション、サービスをすばやく開発、デリバリーします。

デリバリーを加速。 DevOpsベスト・プラクティスの採用で、自動化のカルチャーとトランスフォーメーションを推進します。

ハイブリッドクラウド・プラットフォーム上にエンタープライズ・アプリケーションをデプロイ。 ハイブリッド・マルチクラウド上でオペレーションを自動化し、効率を向上します。

内容

このフィールド・ガイドでは、アプリケーション・モダナイゼーションへのIBM® のアプローチの概要を説明します。

学ぶ

概念の要旨。

始める

アプリのモダナイゼーション・ジャーニーを始めるためのヒント。

アプリケーションのクラウド対応

既存アプリケーションをモダナイズするときには、クラウド・テクノロジーを最大限活用して、クラウドへの移行を容易にすることができます。クラウドネイティブなマイクロサービス手法で、クラウド固有のスケラビリティと柔軟性を活用できます。クラウドネイティブなアプリケーションへのモダナイズによって、アプリケーションは既存投資と同時に、シームレスに動作できるようになります。生産性と統合を阻害する障壁は取り除かれて、新たなユーザー・エクスペリエンスを生み出し、新アプリケーションを開発できます。

1回ビルドするだけで、あらゆるクラウドにデプロイ

アプリケーションの評価。 そのままクラウド・プラットフォームに移動できるアプリと、リファクタリングが必要なものをはっきりさせます。

アプリケーションをすぐにビルド。 コンテナをアプリケーションやサービスの基盤に活用します。

生産性を向上するためにデプロイを自動化。 DevOps/パイプラインはデプロイメントをすばやく、確実に自動化します。

実行と一貫した管理。 すべてのアプリケーションの運用を共通の管理手法に統合して、信頼性を保証し、問題解決を高速化します。

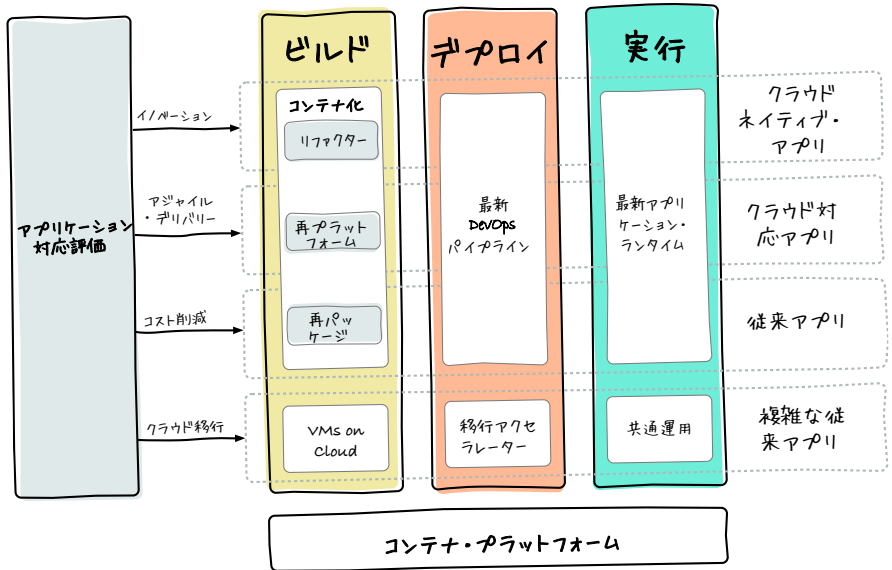


詳細はこちら

IBM と Garage を始めてみませんか？

<https://www.ibm.com/jp-ja/garage>

アクセラレーターとツールを使用してアプリケーションをすばやく、安全にモダナイズします。



IBM Garageは先進テクノロジーとあるべき姿を示すアプローチで貴社のクラウドによる変革のジャーニーを導いて、ビジネス成果の達成を支援します。

モダナイゼーション・ジャーニー

モダナイゼーション・ジャーニーを始めるには、自社資産に適用できる適切な手法を理解しなければなりません。IBM Cloud™ Transformation Advisorが最善のエントリー・ポイント選択をお手伝いして、ジャーニーのそれぞれの段階で価値を提供します。IBM Garageはお客様に適切なパスの理解を支援できます。

ニーズにぴったり合った手法を選択

モノリスをコンテナ化。アプリケーションをクラウドに移行することでコストを削減し、運用を簡略化します。

オンプレミス資産をAPIで公開。クラウド対応が難しいレガシー資産をAPIで活用します。

マイクロサービスにリファクタリング。モノリスを小さくデプロイ可能なコンポーネントに分割します。

新マイクロサービスを追加。段階的にイノベーションを行い、複雑さを減らし、早期に成功させます。

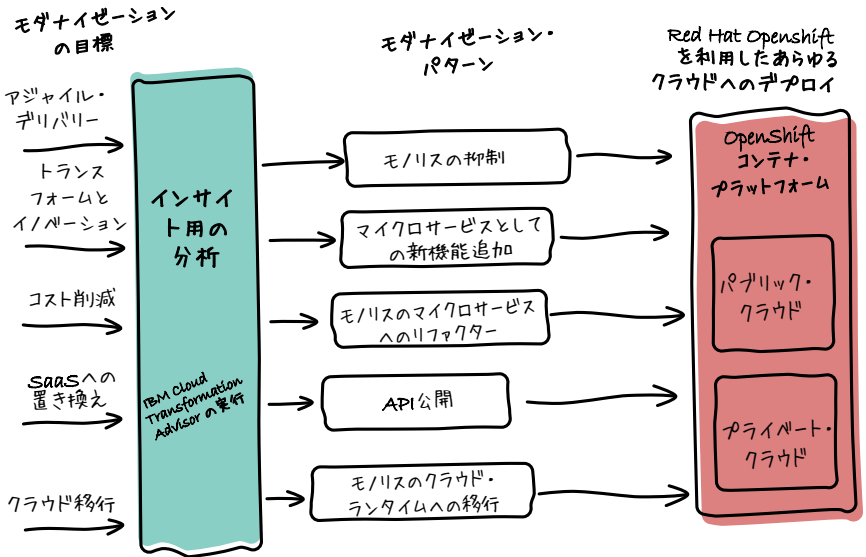
モノリスを抑制。段階的にモノリスを無くしていきます。



詳細はこちら

アプリケーション・モダナイゼーションについてご確認ください。
<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/application-modernization>

必要に応じてアプロー
チを組み合わせ!



このジャーニーを通じて、デリバリーのスピードを向上します。

信頼できる基盤上に構築

Kubernetesなどのコンテナ・プラットフォームは、アプリ・モダナイゼーションの基盤を提供します。このオープン・ソースをベースにしたコンテナ管理システムは、開発者と運用担当者の両方をターゲットにしています。コンテナ化により、開発者は構成をコードとして扱い(Configuration as Code)、最新のDevOpsツールチェーンを実現できます。IBMはIBM Cloud全体(パブリックとプライベートの両方)に、アプリケーション・モダナイゼーションのための一貫性のあるコンテナ・プラットフォームを提供します。

コンテナ - モダナイゼーションの基盤

IBM Cloud Paks™。既存アプリケーションのモダナイズ、新規クラウドネイティブ・アプリの開発を行い、Red Hat® OpenShift® で動作させるためのエンタープライズ対応のコンテナ化されたソフトウェア・ソリューション。

Red Hat OpenShift Container Platform。Kubernetesコンテナ・オーケストレーション・プロジェクトに基づいたOpenShiftが開始点です。最先端のレジリエンスとセキュリティを揃えた強力な基盤が欠かせません。

どこにでもデプロイ。どのパブリック/プライベート・クラウド・プロバイダーも利用できます。

 [詳細はこちら](#)

IBM Cloud Paksをご確認ください。
<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/paks>

IBM Cloud Paks

アプリケーション | データとAI | 統合
自動化 | マルチクラウド | セキュリティー

OpenShiftコンテナ・プラットフォーム

開発者生産性 | 運用効率
ロギング | モニタリング | セキュリティ | アイデンティティ & アクセス管理
オープン・テクノロジー | どこでも実行

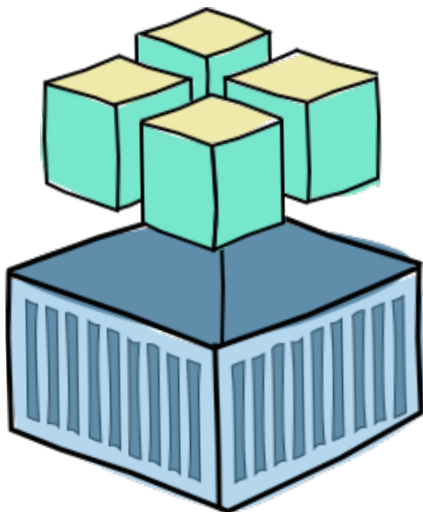
インフラストラクチャーの柔軟な選択

IBM Cloud | AWS | Azure | Google Cloud | エッジ | プライベート | システム

IBMはKubernetesを基盤としたRed Hat OpenShift Container Platform上で動作するクラウド向けエンタープライズ・ソフトウェアを提供します。

IBM Cloud Paksとは?

コンテナとKubernetesだけでなく、本番環境のトポロジーをオーケストレーションして、アプリケーションに対する管理、セキュリティ、ガバナンスを提供する必要があります。IBM Cloud Paksはエンタープライズ対応の、コンテナ化されたソフトウェア・ソリューションで、IBM Cloud上のRed Hat OpenShiftとRed Hat Enterprise Linuxで動作します。共通統合レイヤー上に構築されたCloud Paksにはコンテナ化されたIBMミドルウェアと開発、管理用の共通ソフトウェア・サービスが含まれています。



詳細はこちら

IBM Cloud Paksをご確認ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/paks>

IBM Cloud Pak for Applications マイクロサービス機能、サーバーレス・コンピューティングのサポートなど、組み込みの開発者ツールとプロセスを活用して、クラウドネイティブなアプリをすばやく構築します。

IBM Cloud Pak for Data データの収集、体系化、分析を単純化します。IBMの統合カタログ、オープンソース、サードパーティのマイクロサービス・アドオンによって、データをインサイトに変換します。

IBM Cloud Pak for Integration API ライフサイクル、アプリケーションとデータの統合、メッセージングやイベント、高速転送、統合セキュリティなどの統合、デジタル・トランスフォーメーション活動のすべてで必要とされるスピード、柔軟性、セキュリティ、スケールを達成します。

IBM Cloud Pak for Automation 業務ユーザー向けのローコード・ツール、業務マネージャー向けのリアルタイム・パフォーマンス可視化とともに好きなクラウドにデプロイします。アプリケーション変更やデータ移行なしに自動化ランタイムを移行します。ベンダー・ロックインされずに自動化をスケーリングします。

IBM Cloud Pak for Multicloud Management 広範なハイブリッドにまたがる一貫した可視性、自動化、ガバナンスと、既存のツール、プロセスとの統合を含めたマルチクラウド管理機能が得られます。

IBM Cloud Pak for Security セキュリティー・ツールを統合することにより、ハイブリッド・マルチクラウド環境のあらゆる部分を対象に、脅威に関する洞察を入手できます。

クラウド移行への高速で信頼性の高い方法。

現在、そして将来のアプリ開発

IBM Cloud Pak for Applicationsは一貫したエクスペリエンスを完備して、アジャイルDevOpsプロセスを利用したKubernetes向けのアプリケーション開発を高速化します。IBMの統合ツールを利用して既存アプリケーションをモダナイズできますし、どんなクラウドにも展開できる新規のクラウドネイティブなアプリをすばやく開発できます。

成功に必要なツール

革新的なクラウドネイティブ・アプリを開発。 コンテナとマイクロサービスをベースにした共通モデルを採用。開発者はどんなクラウドにもすばやくビルド、デプロイできるので、記録的な短時間で価値を提供できます。

投資のモダナイズと活用。 モダナイゼーション・ツールを活用することで、モダナイゼーションに伴う時間、コストの見積もりが容易になります。どの場合に既存アプリをリファクタリング、置き換え、コンテナ化、移行、維持すべきかがわかります。Cloud Pak for Integrationには従来の移行スタイルと最新のもののバランスをとるために必要な機能があります。

アジャイルDevOpsカルチャーを創造。 モダン・アーキテクチャーでのクラウドネイティブなアプリ開発モデルへ移行して、仕事のやり方をアジャイルDevOpsプラクティスを使ったものに変えましょう。

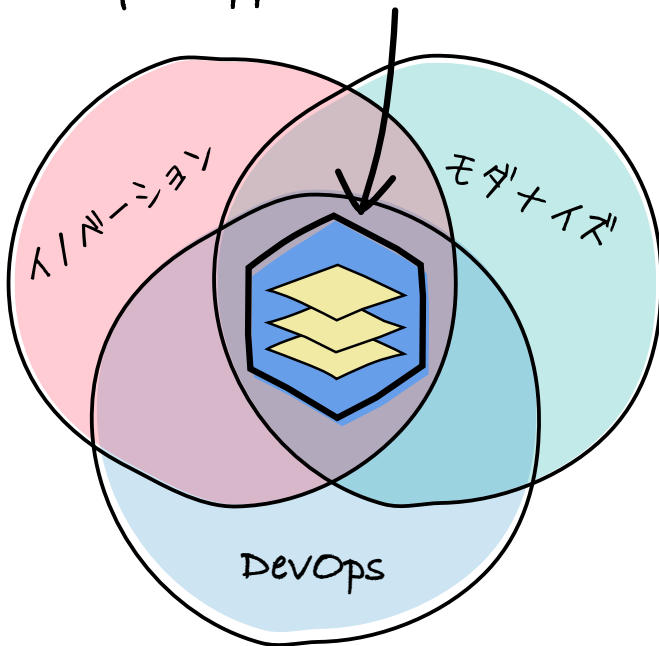


詳細はこちら

IBM Cloud Pak for Applicationsをご確認ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-applications>

IBM Cloud Pak for Applications



Red Hat OpenShiftで動作するIBM Cloud Pak for Applications
はオープン標準上に構築したハイブリッドなマルチクラウド
基盤を提供して、ワークロードやデータがどこでも実行で
きるようにします。

アプリ・ポートフォリオの評価

アプリケーションのモダナイゼーションに取り組む前に、アプリケーションの棚卸をして、ビジネス上の優先順位と照合する必要があります。これはモダナイゼーションの最適な技術的方法を判断し、必要な労力を見積もるのに役に立ちます。

アプリケーション・モダナイゼーションはビジネス・モダナイゼーションです

ビジネス上の優先順位と合わせる。ビジネス・ニーズがモダナイズを押し進める場所を理解します。

アプリケーションを棚卸しする。IBM Cloud Transformation Advisorを実行して既存のJava環境から情報を収集して、モダナイゼーション活動を推奨させます。

モダナイゼーション費用を賢く使う。アプリケーション・ポートフォリオをビジネスの優先順位に合わせて、よりよい意思決定を行います。



詳細はこちら

IBM Cloud Transformation Advisorツールをご確認ください。
<https://www.ibm.com/garage/method/practices/learn/ibm-transformation-advisor> (英語)

IBMの専門知識に基づいた助言を!

相卸を反映したアドバイス

IBM Cloud Transformation Advisor				
データ・コレクター	ユーザー・アプリケーション	<u>推奨</u>		
ソース環境 : IBM WebSphere Application Server				
アプリケーション	推奨		複雑さ	技術的一致 (%)
emailcomponent.ear	Liberty on Private Cloud クラウド配置 ✓	✓	単純	100%
inventorymain.ear	Liberty on Private Cloud クラウド配置 ✓	✓	中間	80%
catalog002.ear	Liberty on Private Cloud クラウド配置 ✓	✓	複雑	100%

モダナイゼーション・オプションについて専門家から貴社に合わせた助言が得られます。

優先順位とオプションを調整する

モダナイゼーションの手法と目標を達成するのに必要な工数の最適な組み合わせを選択して、アプリケーション・モダナイゼーション・ポートフォリオを分類します。

すべてのアプリケーションが同等に開発されるわけではありません

単純化。ビジネス・ニーズがモダナイズを押し進める場所を理解します。IBM Cloud Transformation Advisorを実行して、モダナイゼーション・オプションを明確化します。

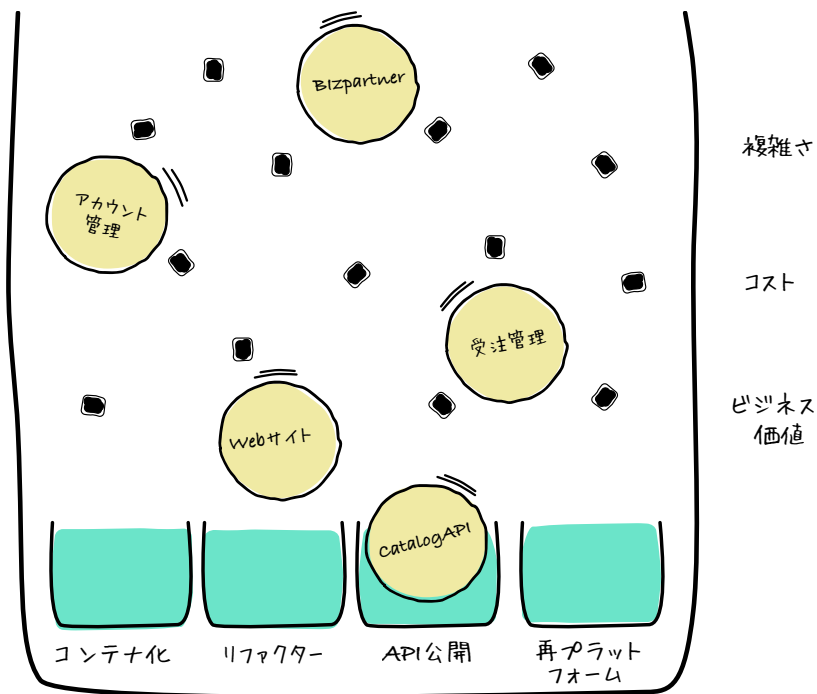
適切なモダナイゼーション手法を選択。モダナイゼーション実現のためのすべての可能な選択肢を複雑さ、コスト、成果で評価します。

計画と優先順位付け。ビジネス上の優先順位と労力の組み合わせでモダナイゼーションを計画します。最初のプロジェクトのいくつかは、短期間でビジネスにおける潜在的な価値が大きいものにすべきです。



詳細はこちら

IBM Cloud Transformation Advisorツールをご確認ください。
<https://www.ibm.com/garage/method/practices/learn/ibm-transformation-advisor> (英語)



アプリケーション・コードの今後の計画とリスク選考に基づいてモダナイゼーション手法を選びます。

アプリケーションのコンテナ化

アプリケーションをコンテナ・イメージにラッピングするのは、モダナイゼーションに向けた最初の手順として適していますが、多くのアプリケーションはコンテナ用に最適化されていません。ロード・バランシング、アプリケーション状態処理、モニタリングは、コンテナ化されたアプリケーションでは異なっています。結果として、アプリケーションの一部を書き直す必要があるかもしれません。同じように、パフォーマンス・チューニングとDevOpsプロセスもコンテナに合わせる必要があります。

コンテナ・イメージにアプリをラップしました。さて、次は？

アプリケーションを適応。アプリケーションをコンテナ化した環境に適合させるには、アクセラレーターが必要です。Cloud Pak for Applicationsは事前に構築したコンテナ化ミドルウェアとサービスを提供してお客様のジャーニーをサポートします。

DevOpsと構成のモダナイズ。新しいアプリケーション用にパイプラインを自動生成するとともに、オーケストレーション・ツールが構成を自動化します。

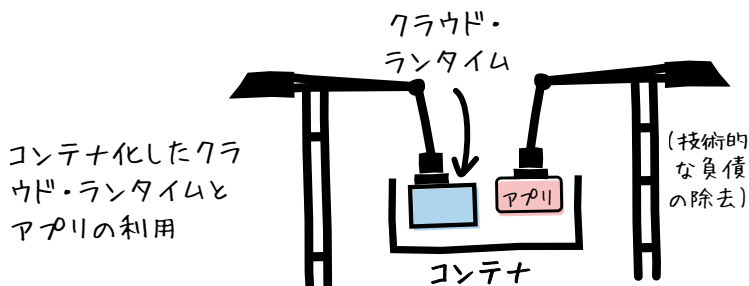
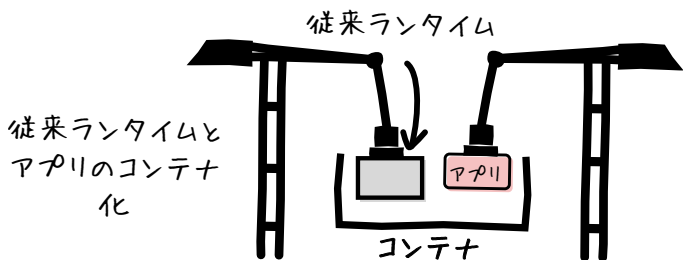
運用を統合、標準化。オープン・コンテナ・テクノロジーに基づいて運用を管理、モニタリングします。



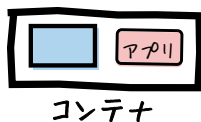
詳細はこちら

アプリケーション・モダナイゼーションについてご確認ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/application-modernization>



DevOpsとコンテナ・
プラットフォーム
運用の採用



コンテナ化されたミドルウェアとアプリケーションは、
最新の開発、運用手法に移行するための鍵です。

最新アプリケーション・プラットフォームの適用

クラウドへの移行は大規模で、複雑な労力を必要とする可能性があります。業務の棚卸を注意深くレビューして、それぞれのアプリケーションに最適のパスを判断するためのインフラストラクチャーを用意する必要があります。WebSphereプラットフォーム上で実行しているのならば、Transformation Advisor (Cloud Pak for Applicationsの一部)を利用して、ジャーニーを促進できます。

将来を考えたクラウド優先フレームワーク

クラウドネイティブなマイクロサービスを構築。 WebSphere® Liberty、クラウド向けに最適化された軽量ランタイムで新たなアプリケーションを構築します。

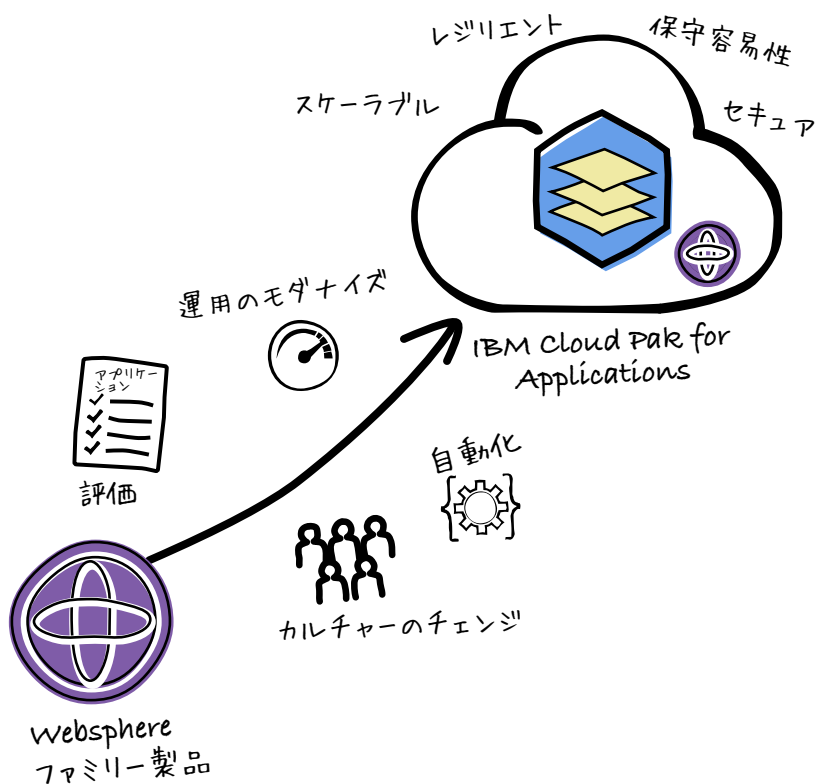
新たなサービスで拡張。 Cloud Pak認定済のコンテナを利用して、既存のWebSphereアプリケーションをモダナイズ、拡張します。

標準化された運用を採用。 従来 of WebSphere アプリをコンテナ化して、ロギング、モニタリングなどの共通運用サービスを利用します。

標準化された運用を採用。 Kubernetes と Red Hat OpenShift コンテナ・プラットフォームでスケーラビリティ、可用性、保守容易性、セキュリティを達成します。

 [詳細はこちら](#)

アプリケーション・モダナイゼーションについてご確認ください。
<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/application-modernization>



WebSphereアプリへの投資はビジネスをうまく推進してきました。
それをクラウド優先のコンテナ・プラットフォームに移行して、API経
由でリーチを新たなクラウドネイティブなアプリに広げます。

リファクタ

リファクタリングは、保守が難しい既存のコードを、分割した形で優れた新しいコードに置換するプロセスです。それぞれの業務機能を順々に置き換えることで、旧来のモノリスは役割を終えます。

インテリジェントなモダナイズ

生産性。アプリケーションをマイクロサービスにリファクタリングすることで、開発者の生産性が向上して、より多くのコードを迅速にリリースできるようになります。

スケーラビリティ。スケーラブルなアーキテクチャーへのリファクタリングは段階的に行うべきです。リファクタリングの各ステップで実際にビジネス価値をもたらすことが重要です。

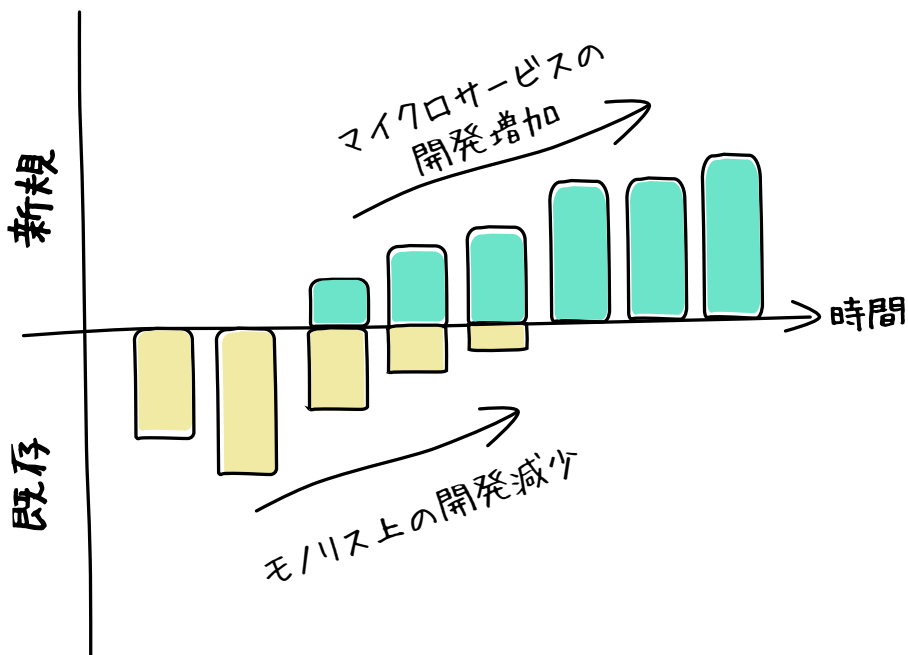
コンテナ化。WebSphere LibertyまたはOpen Libertyコンテナとしてモノリスをパッケージングし直します。それから業務機能を新規のマイクロサービスに分離して、ソリューションに新コンテナを追加します。



詳細はこちら

アプリケーション・モダナイゼーションについてご確認ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/application-modernization>



モノリスを分割して置き換えることで、それぞれのステップで効率とビジネス価値が得られます。

選定済の開発ツールと ランタイム

人気のオープンソース・プロジェクトに基づいたKabaneroプロジェクトは、既存アプリケーションのモダナイズや新規のマイクロサービスベースのアプリ開発に必要なあらゆるツールをまとめています。

標準オープン・テクノロジー

統合コレクション。本番環境に合っている軽量コンテナを利用して、ローカルにアプリケーション開発を開始します。

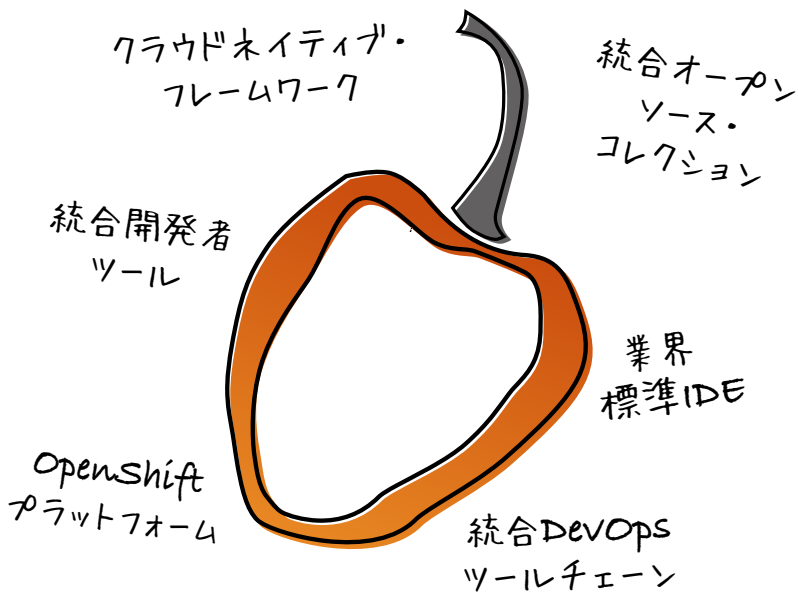
統合開発ツール。好みの開発ツールを利用して、Kubernetes向けのアプリをすばやく開発します。ツールの再選択ではなく、コードを書くことにより多くの時間をかけます。

統合DevOpsツールチェーン。アプリケーションをビルド、テストして、本番環境にデプロイできる事前構成済のDevOps/パイプラインで開発を高速化します。

 [詳細はこちら](#)

オープンソース・プロジェクトKabaneroを確認。

<https://kabanero.io/> [\(英語\)](#)



Kabaneroでインテリジェントなエンド・ツー・エンドの開発エクスペリエンスを高速に繰り返します。

公開と統合

既存アプリケーションの中にはAPIとして公開するのが最善なものがあります。公開によって既存アプリケーションを強化する新機能を構築するのに容易に再利用できるようになります。これらのAPIを活用して、将来のアプリケーションをエコシステムに統合できます。Red Hat OpenShiftで動作するIBM Cloud Pak for Integrationによって、ワークロードをオンプレミス、プライベート/パブリック・クラウドにデプロイし、そこで実行するアジリティが得られます。

既存システムのビジネス価値を引き出す

公開。 既存の価値があらゆるエンドポイントから容易にアクセスできるようにREST APIとして公開します。

管理。 APIを管理下に置いて、セキュリティ、パフォーマンス、可視性を向上します。

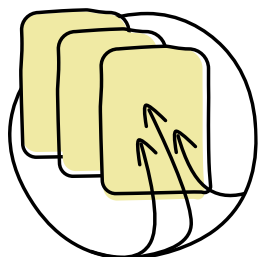
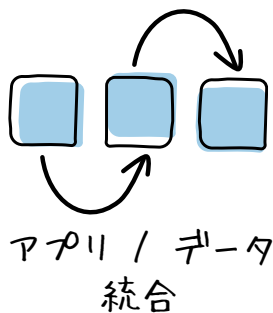
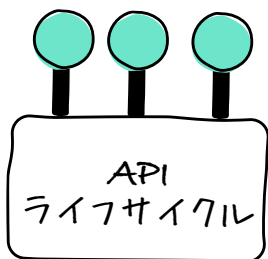
活用。 新規アプリケーションは既存アプリケーションを変更せずに、そのアプリケーションが公開したばかりのAPI上に構築できます。



IBM Cloud Pak for Integrationをご確認ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>





メッセージング

IBM Cloud Pak for Integrationで統合アーキテクチャーの管理を単純化して、コストを削減します。

運用をモダナイズ

アプリケーションを本稼働させた後は、管理しなければなりません。クラウド・サービス管理、運用はアプリケーションとサービスの運用面に対応します。アプリケーションはサービス・レベル・アグリーメント (SLA) に基づいた可用性とパフォーマンスを保証するためにモニターされています。新機能を開発、テスト、リリースする手段の機動力が増してきたので、サービス管理もこのパラダイム・シフトをサポートするように変化しなければなりません。

クラウド運用の再考案

管理しやすいようにビルド。開発者は、一連の標準やソリューションを利用して、アプリケーションを管理しやすく、アプリケーションがサービス・レベル目標に達していることを保証できるように作成します。

モニタリングとロギング。コンテナ・プラットフォーム・ツールを活用して、メトリクスとログをモニターして、アプリケーションの健全性を判断します。予防的に行動して、ユーザーが問題の存在に気づく前に、事前に解決、修正します。

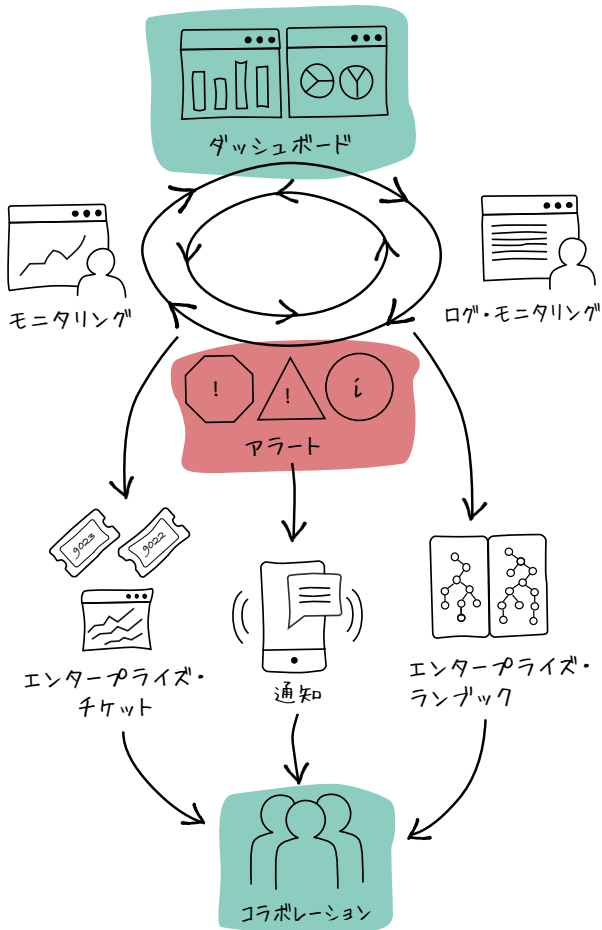
コミュニケーションとコラボレーション。チャット・アプリケーション、問題/プロジェクト追跡システムなどのツールと自動化を用いて、全員に情報を提供し続けます。



詳細はこちら

IBM Cloud Pak for Multicloud Management をご確認ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-management>



コンテナ化されたミドルウェアとアプリケーションは、最新の開発、運用手法に移行するための鍵です。

IBM Garage - ジャーニー の加速

モダナイゼーションにはいろいろなやり方がありますが、すべての資産を書き直すのは実用的ではありません。ビッグバン・モダナイゼーションには大きなリスクがあるので、大規模な活動は影響が測定可能な小さなプロジェクトに分割するのが最善です。ゴールは価値を加速し、提供頻度を上げ、リスクを減らすことです。IBM Garage 専門家がお手伝いします。

必要なものはリファクターするが、リファクター必須ではない

協力による創造。業務のモダナイゼーションの機会を明確化します。自分の部隊のMVPを提示し、構築し、フィードバックを得て、ソリューションを協力して生み出します。

協力による実施。現行資産をモダナイズする適切な手法を選んで、リスクを管理します。自動化とテクノロジーによってジャーニーを高速化します。

協力による運用。アプリケーション資産全体を本稼働用に強化して、運用を標準化して、DevOps効率を向上します。



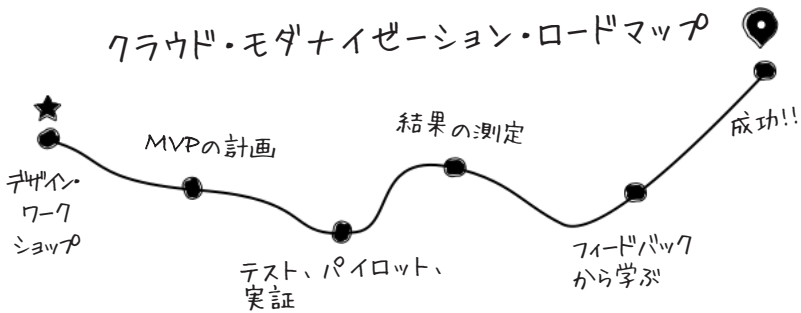
詳細はこちら

IBM と Garage を始めてみませんか？

<https://www.ibm.com/jp-ja/garage>

アクセラレーターとツールを使用してアプリケーションをすばやく、安全にモダナイズします。

IBMのGarage専門家が対応!



IBM Garageは信頼できるパートナーで、テクノロジーとあるべき姿を示すアプローチによって、すぐにビジネス価値を提供します。

注:

Cloud Pak for Applications:

初めに

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-applications/get-started>

Red Hat OpenShiftの
詳細情報

<https://www.openshift.com/> (英語)

Advisor IBM Cloud Transformation

をご確認ください。

<https://www.ibm.com/garage/method/practices/learn/ibm-transformation-advisor>
(英語)

IBM のアプリケーション・モダ
イゼーションの詳細はこちら

[https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/
application-modernization](https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/application-modernization)

Cloud Pak for Integration
をご確認ください

[https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/
cloud-pak-for-integration](https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration)

ブログを読む: Kabanero で

Kubernetes 向けのクラウドネイティブ
なアプリをすばやく構築

[https://developer.ibm.com/blogs/
cloud-native-apps-kubernetes-kabanero/](https://developer.ibm.com/blogs/cloud-native-apps-kubernetes-kabanero/) (英語)

IBM Garageを訪問してみてください!!

<https://www.ibm.com/jp-ja/garage>



コースの受講: Garage

メソッドを理解して、

バッヂを入手!!!

ibm.biz/explore-method-course (英語)

注意

© Copyright International Business Machines Corporation 2018, 2019.

IBMが本書で取り上げた製品、サービス、機能を提供しない国があります。日本で利用可能な製品またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本資料における IBM のプログラムまたは製品のいかなる記載も、そのプログラムのみが使用可能であることを言及または意味するものではありません。IBM の知的所有権を侵害しない限り、機能的に同等のプログラムまたは製品を代わりに使用することができます。他社の製品、プログラム、またはサービスの動作の評価および検証はユーザーの責任となります。

IBMは本書で取り上げた主題に関して特許を取得済、または特許を出願中の場合があります。本書の提供でこれらの特許の使用を許可したわけではありません。許可については書面で以下にお問い合わせください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

以下の段落は、イギリスや以下の条件が各国の法律と矛盾する国には適用されません。INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATIONはこの出版物を「現状のまま」で提供します。権利侵害のないことの黙示の保証、再販可能性、特定目的への適合などを含め、いかなる種類の保証も明示、黙示を問わず行いません。取引において、明示、黙示の保証否認を許さない司法当局が存在するため、この文は適用されないことがあります。

本資料には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれている場合があります。ここに含まれる情報は定期的に変更されます。本資料の最新版にはこれらの変更が組み込まれます。IBMは事前の予告なく、本資料に記載した製品、プログラムを随時改善、変更することがあります。

IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回する場合があります。これらは目標および目的を提示するためのみ使用しています。

商標

IBM、IBMロゴおよび**ibm.com**は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtmlの「著作権、商標情報」をご覧ください。

IBMアプリケーション・モダナイゼーション

アプリケーション
対応計画

インベシジョン

パブリック
クラウド

コスト削減

クラウド移行

ビルド

コンテナ化
リファクタ

再プラットフォーム

再プラットフォーム

VMS on
Cloud

デプロイ

最新
DevOps
パイプライン

移行ワーク
フロー

実行

最新アプリ
ケーション
ランタイム

共通運用

クラウド
ネイティブ
アプリ

クラウド対
応アプリ

従来アプリ

複雑な従
来アプリ

コンテナ・プラットフォーム